

平成 25 年度工学系共通経費による顕彰と研究助成 成果報告書

所 属	化学工学専攻
研究者(ふりがな)	関口 秀俊(せきぐち ひでとし)
タイトル	仁荷大学との日韓学生セミナーの開催を通じた学生交流と教育研究連携
助 成 名	AOTULE 加盟大学以外のアジア・オセアニアの大学との教育研究連携助成
採択金額	500,000円
<p>背景と目的</p> <p>韓国の仁荷大学は、韓国内大学ランキングで TOP15 に入る工学系が強い私立総合大学である。同大学化学工学科とは、化学工学専攻が 2000 年 2 月に教育研究交流の目的で部局間交流協定を締結して以来、毎年の学生セミナーの開催を軸として、共同研究の実施や仁荷大学卒業生の本学大学院への受入なども行い、教育研究連携活動が活発に行われ、大きな成果を上げている。特に、今回の助成対象となる学生セミナーは、毎年夏に日韓相互に会場を移しながら開催し、今年度で第 9 回となる。このセミナーは、日韓の学生が協力して、セミナーの予定や発表プログラムの構成、当日の運営まで行う学生主体のセミナーである。ここでは、各自の研究を英語で発表後、双方の教員も交えてディスカッションするものであり、春に研究室所属した 4 年生から博士課程学生まで、参加する学生は全て口頭発表を行い、討論に加わる。このような学生主体のセミナーは、今後の自分の研究の進捗に多大な影響を与えるだけでなく、プレゼンテーション能力やディスカッション能力の養成、さらには異文化への意識の高まりや、自分の研究内容やプレゼン能力の客観的な把握など、学生自身の研究能力の向上や国際性涵養に非常に効果がある。そして、なによりも、他国の学生と知り合いになることは、将来、グローバル社会で活躍が期待される学生にとって貴重な経験や財産となることは間違いない。加えて仁荷大学とはこのセミナーを通して、化学工学分野、さらには工学全体の分野で、将来に続く教育研究連携体制の構築も目指している。</p>	
<p>実施概要</p> <p>東工大からは、化学工学専攻所属の教員 4 名(鈴木正昭、森伸介、小玉聡、関口秀俊)、仁荷大からは教員 3 名(Prof. Park, Shim, Choi) がセミナーに参加した。また、学生は、鈴木・森研および関口研に所属する大学院生、学部生、研究生あわせて計 29 名、仁荷大からは 25 名であった。セミナーは 4 セッションで校正され、全ての学生が自己紹介後、自分の研究内容や経過を発表した。上述したように、セミナーの計画・運営は全て双方の学生が担当し、各セッションの座長も双方の学生から 1 名ずつが担当した。座長には、質疑応答の際に教員だけでなく、学生からも積極的な参加を促すようにさせた。加えて、研究室や大学施設の見学、さらには学生レベルでの交流会を開催し、コミュニケーションの場を設け、学生間の親睦を深める機会を持った。以下がセミナーの概要である。</p> <p>日時 2013 年 8 月 29 日(木)～8 月 30 日(金)</p> <p>場所 仁荷大学・ JUNGSEOK MEMORIAL LIBRARY</p> <p>プログラム</p> <p>学生セミナー、大学見学、ラボツアー、教員懇談会&学生幹事次年度打ち合わせ</p>	





本年度の成果

計画通り、学生主体のセミナーや見学会を行い、期待通りの成果が得られた。学生にとって、口頭による英語でのプレゼンテーションは、自分の研究内容やプレゼン能力の客観的な把握につながり、今後の自己啓発活動につながる。実際、多くの学生が、次回はしっかりプレゼンしたいと話していた。一方、学生間のコミュニケーションは問題なく行われ、親睦が十分に深まり、参加した双方の学生にとって貴重な財産となったことは間違いない。このセミナーを通じて、通常の研究活動では得られない教育的効果を学生に与えること、そして仁荷大学化学工学科との交流関係をさらに深化させることができた。

使用内訳書

費目	内訳	金額
備品1		0円
備品2		0円
消耗品		0円
旅費	国外出張(8/28-31, 助教1名、学生9名)	544,320円
その他		
合計	差額 44,320円については法人運営費(予算詳細 11210 000001041500000)で補填。	544,320円